

9月、10月の大和葛城山と二上山

二上山のナンバンギセル

9月初旬、山歩きクラブのkさんから「二上山でナンバンギセルが咲いた」との連絡を受け、早速写真に収めてきたが、葛城山のオオナンバンギセルも見たくなり、2日おいて葛城山に登った。登り口は葛城市の「葛城山麓公園」の墓地の北側だった。

猛暑の中でも秋の花たちが

連日の猛暑続きで、いい加減うんざりした時期だったが、葛城山ではオミナエシ、ナデシコ、ワレモコウ、ツルリンド



↑二上山のナンバンギセル

ウ、オトギリソウ、ツリガネニンジン、アキチョウジそして薄紫色のホタルブクロなど晩夏から初秋の花たちが咲いていた。

オオナンバンギセルは見つからなかった

ナンバンギセル同様ススキの根に寄生するオオナンバンギセルを求めて、山頂一帯にひろがるススキの中を、文

↓ツリガネニンジン

字通り右往左往して探し回ったが、どこにもオオナンバンギセルはなかった。

開花時期を過ぎてしまったのだろうか
やや気落ちしたせいか、往路をひきかえした下りは長く感じたが、下山口近くで群れて咲いていたセンニンソウに慰められた。

ハンミョウの道案内

↑ナデシコ もう一つ嬉しかったのは、ハンミョウに出会った事だ。この登山道の入口近くで、数匹のハンミョウが私を先導するように飛ん

↓センニンソウ では止まり、飛んでは止まりと、しばらく同行してく

れたのだ。

「道しるべ」「道教え」の異名をもつこの虫はかつてはお寺や神社の境内などいたるところで見かけたのだが、近年激減し、他県では絶滅危惧種として登録されたりしている。

道路をはじめ、地表の舗装化が進んだせいだとの説もあるが、宝石のように美しく、独特の香りを放つ身近な昆虫だけに、身边から自然が無くなっていくようで淋しい限りだ。

↓ハンミョウ



↑ナデシコ



↓センニンソウ



↑ツリガネニンジン





↑ツルリンドウ



ヤマジノホトトギス→



ホタルブクロ・葛城山で↑

続・続・二上山に咲く花々 16

ツルニンジン (蔓人參)

キキョウ科ツルニンジン属

今、咲いています。ツル性で根が太く、それが朝鮮人參に似るのでこの名に。

林縁部に、ササなど他の植物に絡まって枝を広げています。

薬用植物ですが、韓国では高級食材として栽培もされているそうです。

別名のジイソブは「お爺さんのそばかす」の意。近似種のバアソブと共に希少種です、皆で大切にしたいですね。



続・続・二上山に咲く花々 17

クコ (枸杞) ナス科クコ属

山歩きクラブのHさんに教えてもらい、岩屋峠で写真を撮りました。中国名をそのまま和名(音読み)としていますが、元々の意味は「カラタチ(杞)に似て枸(柳の仲間)のようになやか」な植物との事らしい。

日本にも自生し、今、二上山で咲いています。赤い実はドライフルーツやクコ酒に、葉はクコ茶に、根は薬に、そして若葉はクコ飯にと多様に活用されてきました。

樞原市久米寺の開祖とされる久米の仙人は、このクコに詳しく、人々にその栽培と活用法を教えたとされています。

花期は夏～秋ですが、春の季語で「枸杞垣の似たるに迷ふ都人」(蕪村)とあり、垣根にも使われてきたようです。